広告特集
企画・制作 朝日新聞社メディアビジネス局
協力 株式会社ワタナベエンターテインメント

林修×朝日新聞
世の中が見える
紙面授業

おしえて 林先生！

今日のテーマ
指定生乳生産者団体制度
後編

あらゆる分野に精通した林修先生が、近ごろ気になる話題を徹底解説。モデルの上川あいりさんと一緒に、世の中のナゼ？を楽しく学びましょう。今日のテーマは、昨日に引き続き「指定生乳生産者団体制度」です。

【昨日のおさらい】

牛乳や乳製品の原料となる「生乳」は出産した乳牛からだけ生産され、傷みやすい、液体なので運びにくい、生産量を調整しにくいなど、他の農産物にはない難しさがあります。

酪農家のみなさんが乳牛の世話や生乳の生産に集中して取り組めるよう、「指定生乳生産者団体」が酪農家さんに代わって扱いが難しい生乳の集荷・検査・販売などを行う制度があるんですね。

Q 酪農といえば北海道！というイメージがありますけど実際は？

A 牧場は全国（北海道と都府県）にありそれぞれ大事な役割を担っています。

上川 たとえばどんなことですか？

林 大消費地に近い都府県の牧場で生産される生乳は、主に鮮度が求められる飲用製品（牛乳など）の原料となります。一方、北海道は大消費地から遠く輸送コストがかかるため、供給する生乳の大半は保存の利く乳製品（バターやチーズなど）の原料として使われます。

上川 そんなふうに、自然にバランスがとれるものですか？

林 それを調整しているのが指定団体という組織です。北海道と都府県それぞれの生産の特徴を生かせる仕組みがあることで、全国どこでも酪農という仕事が成り立つ。それは日本の食料自給を守ることにもつながっています。

上川 たとえば北海道の牧場を見学して、生乳の特徴や指定生乳生産者団体（以下、指定団体）制度について有意義な勉強ができましたね。

林 そうですか？　上川さんは大はしゃぎで子牛を追いかけて、牛乳でおなかをパンパンにしていた姿ばかり印象に残っていますが。

上川 おなかパンパンのまま大事なことも考えていたんです。牧場って、意外と私たちの身近にもあるんですね。

林 生乳の生産量でいえば最も多いのは北海道で、日本全体の半分以上を占めています。でも指定団体制度の下、都府県の牧場ともうまく役割を補い合っているんですよ。

全国の多様な生乳生産を支える「指定団体制度」

【北海道】
主に乳製品向けの生乳を供給
酪農家戸数：6,490戸
生乳生産量：390万トン/年

【都府県】
主に飲用製品向けの生乳を供給
酪農家戸数：10,500戸
生乳生産量：351万トン/年

資料：牛乳乳製品統計［平成27年度］、畜産統計［平成28年2月1日現在］（ともに農林水産省）

Q なぜ北海道と都府県の役割分担が必要なの？

A 需給や価格の混乱を招かないためです。

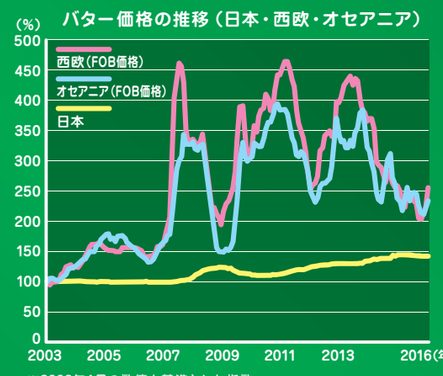
上川 大切なのは北海道と都府県の役割分担ですね。またひとつ覚えました。

林 それにはもうひとつの意味もあります。生乳の販売価格は、一般に鮮度が求められ、輸入品と競合しない飲用製品向けのほうが乳製品向けよりも高いので、すべての酪農家が自由に販売すれば、牛乳は過剰となり乳製品は不足する、ということになりかねません。事実、指定団体制度のような仕組みがない国では、乳製品の供給が安定せず短期間で価格が乱高下しやすい傾向にあります。

上川 日本では牛乳も乳製品も、値段はだいたい安定していますよね。

林 その理由のひとつが、飲用製品向けよりも価格が安い乳製品向け生乳を供給しても、酪農家の生産コストを補えるような仕組み（＝指定団体を通じて乳製品の原料乳を安定的に供給する酪農家に対する価格の補填）があることです。みんなが納得してそれぞれの役割を果たせるよう、支えていく工夫といえます。

上川 供給や価格の安定は私たちにとっても大事なことだから、日本のいいところは守ってほしいですね。



※2003年1月の数値を基準とした指数
資料：USDA「INTERNATIONAL DAIRY MARKET NEWS」、農林水産省「主要乳製品の大口需要者向け価格の動向」

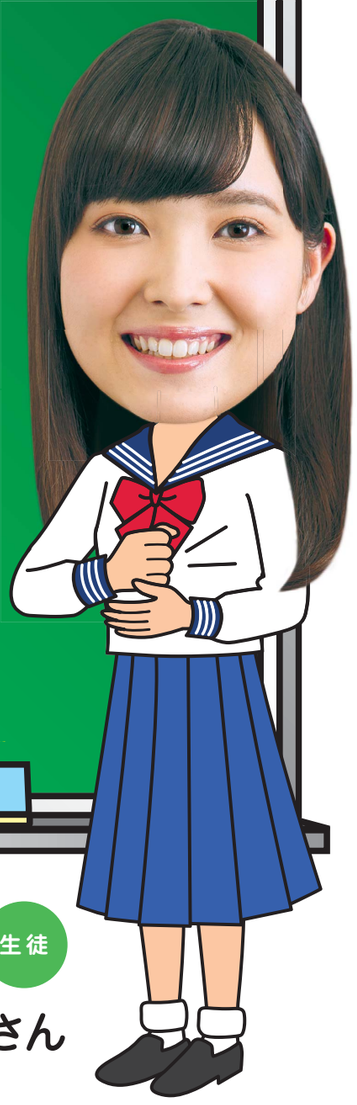
Q これからも日本の牛乳や乳製品を守っていくために大切なことは？

A 現状をよく知り理解すること。それが何よりの支えです。

林 ちなみに日本の牛乳は、国産100％です。乳製品については国産で足りない分を一部輸入していますが、どの国も輸出よりも国内消費を優先するため、輸出にまわるのは世界の生乳生産量全体の1割にもなりません。将来、世界の人口増加で食料難になる可能性もありますから、国産の食品は今後も守っていきたいですね。また日本には、気象条件などから酪農はできるものの、作物の栽培には向かない土地も多いんです。酪農という産業があるからそこにも人が暮らし、集落が、ひいては国土が守られる。全国で酪農ができることは、その点でも意義があります。

上川 日本の酪農を守るために、私はこれからもおなかパンパンになるまで牛乳を飲み続けます。

林 そんなに頑張らなくていいですよ（笑）。大切なのは、現在の状況を理解し、酪農にとって本当に必要な仕組みをみんなで考えること。それが私たち自身の安心を守ることにもつながります。



国産100％の牛乳をこれからも飲み続けることができるように、私たちも普段できることから協力したいですね。

そのための第一歩が「理解する」ということです。日本の酪農にとって何が本当に大切なのか、知ることから始めましょう。

今日のまとめ　日本全国で牛乳や乳製品が安定的に届く今の状況を守ろう。

担任 東進ハイスクール 講師
林 修先生
はやし・おさむ／東京大学法学部卒業。東進のTVコマーシャルのセリフ「今でしょ！」が2013年新語・流行語大賞に。受験生から絶大な信頼を得る傍ら、多数のTVレギュラーを抱え多忙な日々を送る。

生徒 モデル
上川あいりさん
かみかわ・あいり／1999年生まれ。中学3年生の時にスカウトされ、現在は現役高校生モデルとして活動中。

一般社団法人 中央酪農会議
http://www.dairy.co.jp